

第2章

よりよい生き方を求め、 ともに学び合う教育のまち



2-1 幼稚園・学校教育

2-2 社会教育

2-3 青少年健全育成

2-4 スポーツ

2-5 文化芸術・文化財

2-6 国内外交流

第2章

よりよい生き方を求め、ともに学び合う教育のまち

1 幼稚園・学校教育

※この分野は、「庄内町教育振興基本計画（後期計画）」と整合性を図り策定しています。

◆現状と課題

国は平成30年、第3期教育振興基本計画を策定し、基本的方向性として「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力の育成」「社会の持続的な発展を牽引するための多様な力の育成」、「生涯学び、活躍できる環境の整備」、「誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットの構築」、「教育政策推進のための基盤の整備」を掲げ取組みを進めています。

山形県では第6次教育振興計画を策定し、基本目標を「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」とし、目指す人間像に「いのちをつなぐ人」、「学び続ける人」、「地域とつながる人」を掲げ取組みを進めています。令和2年度からの5年間を対象とした後期計画では、3つの目指す人間像のうち2つが「学びを生かす人」「地域をつくる人」と改訂され、学びを生かしてより主体的に社会と関わる姿勢が求められています。

これらの計画の改訂を踏まえ、本町でも、庄内町教育振興基本計画の平成28年からの前期5年の取組みを評価し、令和7年に向けて後期の目標と計画を策定して取り組みます。

本町の園児・児童生徒数は、令和2年5月1日現在、幼稚園児が250人、小学校児童が947人、中学校生徒517人となっており、5年前と比べ279人の減少で少子化が進んでいることは明らかです。

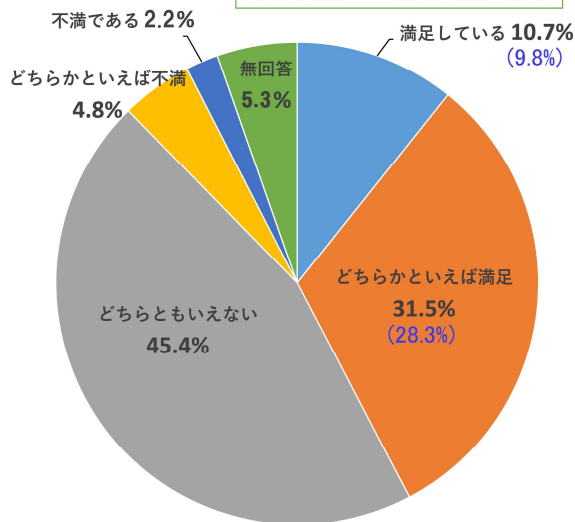
本町で大切にしてきたふるさと教育の成果として、全国学習状況調査の結果から、小中学生の地域との関わりや参画意識は高まってきていることがわかります。また、自尊感情や将来の夢・希望への意識が低いことが課題でしたが、震災をきっかけとした南三陸町との支援・交流活動や地域の方々との関わりを実感できる様々な学習活動を通して、子ども達のこれらの評価



町民の満足度

※（）はH26調査数値

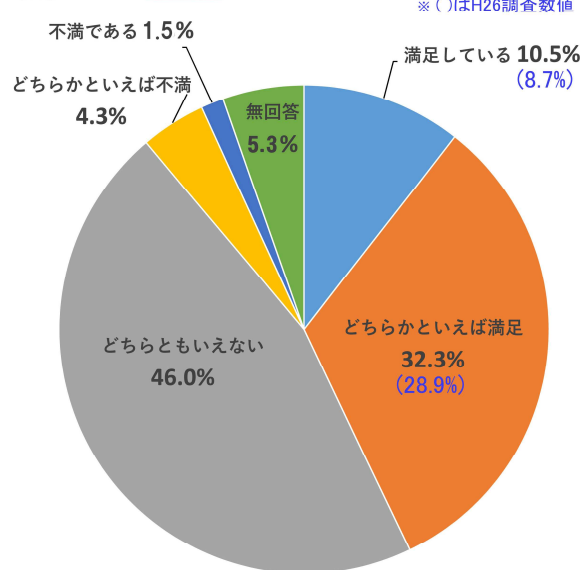
保育園・幼稚園環境



町民の満足度

※（）はH26調査数値

小中学校環境



※ 町民幸福度アンケート調査結果(令和元年度)より

は高まってきています。今後も本町の教育の柱として、ふるさと教育や人・社会に役立つとする心を育む教育を継続することが大切です。幼児教育では、幼児期を人間性の基礎をつくる重要な時期と位置づけ、多様な体験や地域の人とのふれあいを大切にするとともに、働きながら子育てをする保護者を応援するため預かり保育を実施してきました。今後さらに地域との関わりや体験を大切にした幼児教育の充実と、時代の変化によるニーズに対応した、本町らしい子育て支援のあり方を検討していく必要があります。

一方で、少子化が加速する中、失敗を恐れず挑戦するたくましさやがまん強さ、健全な生活リズムや情報モラル等の育成が大きな課題となっています。複雑な家庭環境や経済的問題を抱えた世帯の増加などによる家庭教育力の低下も危惧されています。家庭教育の推進とともに教育相談体制の充実など、総合的に子どもを支援する体制の構築が今後も必要とされています。

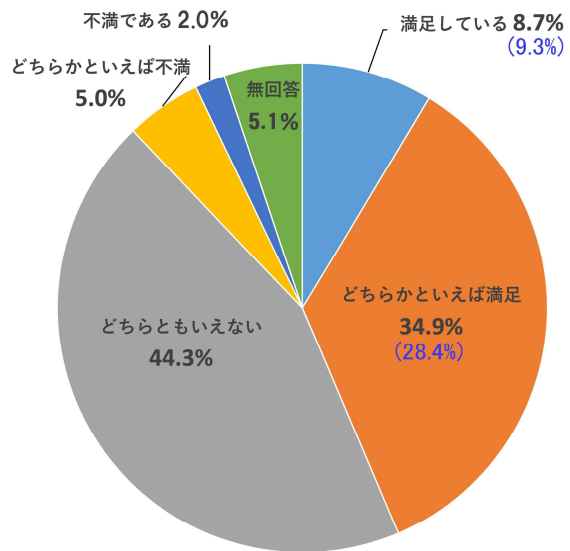
本町で推進してきた、家庭・学校・地域が一体となって子どもを育てる伝統も成果を上げてきています。少子高齢化は町の大きな課題ですが、地域学校協働活動の推進やコミュニティ・スクールの導入によって、学校と地域の両方が活性化する仕組みを構築していくことがこれからますます重要になります。

教職員の資質向上に向けては、教育研修所を設置し喫緊の課題解決や現場のニーズに沿ったテーマによる研修を実施するとともに、業務の効率化を図り教職員の負担軽減を図ってきました。今後は学校現場の世代交代が進む中、働き方改革を進めながらどのように教職員の資質向上を図るかが課題です。

幼稚園・学校施設は、建設後40年以上経過している建物が多く老朽化が進んでいます。施設整備にあたっては、今後さらに児童生徒の減少が見込まれる中で、学校施設適正規模・適正配置検討委員会での意見内容や学校施設長寿命化計画の策定内容を踏まえ、将来を見据えた持続可能な教育環境の整備を進めていくことが求められます。

町民の満足度 学校教育施設

※()はH26調査数値



※ 町民幸福度アンケート調査結果(令和元年度)より

❖ 施策の体系

1 幼稚園・学校教育

- 1 いのちを大切に、よりよい生き方や志を求める教育の推進
- 2 地域とつながり、共に社会をつくる豊かな心の育成
- 3 生きる力の基礎を培う幼児教育の充実と子育て支援の推進
- 4 【生きる力・学び】一人一人の学ぶ意欲と確かな学力の育成
- 5 【生きる力・心と体】健やかでたくましい心と体の育成
- 6 庄内町の良さを生かした魅力ある学校づくりの推進
- 7 学校と家庭、地域が支えあつしくみの構築
- 8 教職員の資質向上と働き方改革の推進
- 9 学校教育を支える施設・教育環境の充実

❖ 主要施策

2-1-1 いのちを大切にし、よりよい生き方や志を求める教育の推進

家庭・学校・地域が一体となり、子どもに自他のいのちといのちの継承の大切さを教えます。また、よりよい生き方や志（夢）を育むため、道徳教育やふるさと教育を推進します。

2-1-2 地域とつながり、共に社会をつくる豊かな心の育成

町の自然・歴史・文化を学び、感謝する心と豊かな心を育むため、社会科副読本を活用しながらふるさと教育を推進します。また、人や地域に役立つ心や助け合い、支え合う社会力や共生の心を育てるため、インクルーシブ教育^{※13}や幼小中の連携を一層進めるとともに、南三陸町との交流、国際交流や異世代交流等の活動を積極的に推進します。

2-1-3 生きる力の基礎を培う幼児教育の充実と子育て支援の推進

地域の力を生かした特色ある幼児教育を推進するとともに、家庭教育力の向上を目指した情報発信や子育て相談の充実、保護者のニーズに対応した保育との連携を進め、子育て支援を図ります。

2-1-4 【生きる力・学び】一人一人の学ぶ意欲と確かな学力の育成

情報化、国際化社会において、子ども達が意欲を持って主体的に学び、確かな生きる力を身につけられる授業づくりと、指導法についての教職員研修を重視します。関係機関や専門家と連携し、課題のある子どもの早期発見・早期支援に努め、特別支援体制の強化を図るとともに、学習支援員や特別支援講師等を配置し一人一人に寄り添った教育を推進します。

2-1-5 【生きる力・心と体】健やかでたくましい心と体の育成

一人一人の子どもに達成感ややりがいを感じる機会をつくるとともに、すべての子どもが生き生きと生活できるよう、学校での「居場所づくり」や「絆づくり」を進めます。また、課題を抱えた子どもや保護者への支援を充実させます。家庭・学校・地域が連携して子ども達の生活やスポーツ、文化活動を応援し、健やかでたくましい心と体を育てます。

2-1-6 庄内町の良さを生かした魅力ある学校づくりの推進

自然・歴史・文化など地域の良さや施設、行事を学校経営に生かしていきます。また、校長・園長のリーダーシップと職員の同僚性が発揮された経営の充実と子どもや保護者から信頼され、いじめのない、魅力ある学校づくりを推進します。

2-1-7 学校と家庭、地域が支えあつしくみの構築

学校と家庭、地域が連携し、ともに子どもを育てる共育（ともいく）を推進します。また、地域学校協働活動の推進やコミュニティ・スクールの導入により、地域に開かれた幼稚園・学校づくりを進めるとともに、学校と地域が課題を共有してともに活性化できる持続的なしくみを構築します。

2-1-8 教職員の資質向上と働き方改革の推進

教育研修所の機能を生かし、町の課題と現場のニーズに沿った研修を行います。また、教職員の業務の効率化を図り、働き方改革を推進します。

2-1-9 学校教育を支える施設・教育環境の充実

園児・児童生徒の安全安心な教育環境を確保するため、施設の維持管理や修繕等を継続していきます。施設整備にあたっては、学校施設適正規模・適正配置検討委員会の意見や学校施設長寿命化計画の策定内容を踏まえ、将来にわたり持続可能な教育環境の整備を図ります。

(((用語解説 ^{※13} 障害の有無にかかわらず、誰もが望めば合理的な配慮のもと地域の普通学級で学ぶこと。

❖ 主要事業

- ふるさと教育推進事業
- 幼児教育・預かり保育事業
- 学習支援員等配置事業
- 小中学校入学記念品贈呈事業
- 就学援助事業
- 地域学校協働活動推進事業
- 外国語指導助手招致事業
- 教育研修所事業
- 学校施設整備事業
- 学校施設適正規模・適正配置検討事業

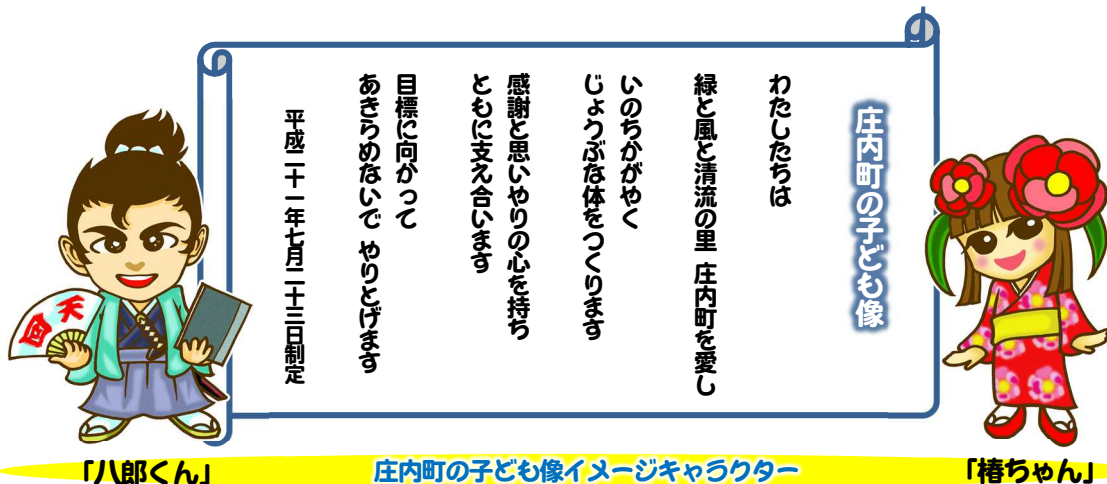
❖ 関連する個別計画

- 庄内町教育振興基本計画 《平成28年度～令和7年度》
- 庄内町学校施設長寿命化計画 《令和3年度～令和42年度》

❖ ベンチマーク（施策指標）

平成26年度 計画策定時	令和2年度 上段：R1実績値 下段：計画値	令和7年度 上段：修正値 下段：計画値	① R1実績値が計画値を上回った要因 ② R1実績値が計画値に達しなかった要因 ③ R7計画値を修正した理由
指標名 ① 「ふるさと教育の推進」教職員のAB評価の割合（庄内町教職員アンケート） 【単位：％】			
幼稚園 100.0 小学校 70.0 中学校 20.0	幼稚園 94.8 小学校 94.6 中学校 100.0 幼稚園 100.0 小学校 80.0 中学校 50.0	幼稚園 96.0 小学校 96.0 中学校 100.0 幼稚園 100.0 小学校 90.0 中学校 80.0	① ふるさと教育の推進は町全体での取り組みが成果を挙げている。特に小中学校では、目標値を大きく達成している。幼稚園は数値的には未達成であるが、高い数値を示していて、達成率は高いと評価している。 ③ 教育振興基本計画の大きな柱となっているため、今後もさらなる推進を目指すため。
★設定指標の考え方	ふるさと教育の更なる推進を図るため、これまでの実績値を参考により高い目標値を設定し取り組む。		
指標名 ② 「夢や希望をもっている」子どものAB評価の割合（全国学習状況調査） 【単位：％】			
小学校 86.5 中学校 67.3	小学校 89.2 中学校 73.9 小学校 90.0 中学校 75.0	小学校 90.0 中学校 75.0 小学校 90.0 中学校 80.0	② 本町の子ども達は、学習・運動等まじめに頑張るが、夢や希望に対する意識がまだ低い傾向にある。 ③ 同調査での全国平均は上回っていることから、さらに積極的に取り組むことが必要である。
★設定指標の考え方	子どもが広い視野を持ち、将来に夢や希望を持ち、生き方を前向きに考えられるよう更なる取組を進める。		
指標名 ③ 「人の役に立つ人間になりたい」子どものAB評価の割合 （全国学習状況調査）【単位：％】			
小学校 94.3 中学校 97.5	小学校 97.2 中学校 95.6 小学校 96.0 中学校 98.0	小学校 98.0 中学校 98.0 小学校 98.0 中学校 98.0	① 地域行事への参加・交流、ボランティア活動など積極的な活動ができている。中学校で若干低い数値ではあるが、ほぼ達成できている。 ③ 他者に目を向けること、地域のために生きることを考える体験をさらに継続していく必要がある。
★設定指標の考え方	他者に目を向け、地域のためにできることを考える体験を継続する等、更なる取組を進める。		

平成26年度 計画策定時	令和2年度 上段：R1実績値 下段：計画値	令和7年度 上段：修正値 下段：計画値	① R1実績値が計画値を上回った要因 ② R1実績値が計画値に達しなかった要因 ③ R7計画値を修正した理由
指標名≫ ④ 「自分には良いところがあると思う」子どものAB評価の割合 (全国学習状況調査) 【単位：％】			
小学校 75.1 中学校 74.4	小学校 83.6 中学校 76.1 小学校 80.0 中学校 80.0	小学校 85.0 中学校 80.0 小学校 85.0 中学校 85.0	①児童会・生徒会活動等の集団づくりの中で自尊感情は高められてきている。中学校で若干低い数値ではあるが、計画当初実績を上回っている。 ②「学校に行くのが楽しい」と感じられ、一人一人が安心できる居場所づくりや集団の絆づくりに取り組むことが今後ますます必要である。
★設定指標の考え方	すべての子ども達が「学校に行くのが楽しい」と感じられ、生き生きと安心して生活のできるよう、更なる推進を図る。		
指標名≫ ⑤ 「町の自然・歴史・文化を教育に活用する手法の重視」 教職員のAB評価の割合 (庄内町教職員アンケート) 【単位：％】			
幼稚園 93.0 小学校 92.0 中学校 75.0	幼稚園 89.5 小学校 70.2 中学校 85.7 幼稚園 95.0 小学校 95.0 中学校 80.0	幼稚園 95.0 小学校 95.0 中学校 88.0 幼稚園 95.0 小学校 95.0 中学校 85.0	②地域の資源を積極的に活用するふるさと教育は、幼稚園、中学校で活発な傾向にあるが、小学校の教職員は目標値未達成の厳しい評価をしている。 ③地域活動や交流活動が削減され、限られた時間で学習指導要領に沿った内容をより効果的に取り組むためのカリキュラムマネジメントが重要となっている。
★設定指標の考え方	限られた時間でより効果的なカリキュラムマネジメントに取り組む等、実績値を参考により高い目標値を設定し、更なる推進を図る。		
指標名≫ ⑥ 「家庭・学校・地域が連携した教育の推進」教職員のA評価の割合 (庄内町教職員アンケート) 【単位：％】			
未実施	(A評価の割合) 幼稚園 57.9 小学校 24.3 中学校 50.0 (AB評価の割合) 幼稚園 80.0 小学校 80.0 中学校 70.0	(A評価の割合) 幼稚園 60.0 小学校 50.0 中学校 55.0 (AB評価の割合) 幼稚園 90.0 小学校 90.0 中学校 80.0	③取組みをさらに推進し、今後はコミュニティ・スクールの体制整備を進めるため、更に質の高い目標値とする必要がある。
★設定指標の考え方	これまでAB評価の割合を指標として設定していたが、実績値を参考により精度の高い目標値(AB評価⇒A評価の割合)を設定し、更なる推進を図る。		



平成26年度 計画策定時	令和2年度 上段：R1実績値 下段：計画値	令和7年度 上段：修正値 下段：計画値	① R1実績値が計画値を上回った要因 ② R1実績値が計画値に達しなかった要因 ③ R7計画値を修正した理由
指標名≫ ⑦ 小学校大規模改修整備率 【単位：％】			
67.0	68.5 74.0	75.0 80.0	②③ 改築又は長寿命化改修を計画的に実施すべき築年数となっているが、児童数が減少傾向にあるため、減築や統合等の総合的判断が必要となっている。実績値及び目標値の下方修正。
★設定指標の考え方	今年度に策定する長寿命化計画に基づく整備方針が決まるまでは、これまでどおり大規模改造（質的整備を中心に）や施設の維持修繕を行っていくため、それに見合った想定目標値を設定した。		
指標名≫ ⑧ 中学校大規模改修整備率 【単位：％】			
11.0	36.8 26.0	45.0 44.0	① エレベーターや空調設置など、計画的な学習環境の整備（質的整備）が実施できた。 ③ LAN整備、トイレ改修などが見込まれるため。
★設定指標の考え方	今年度に策定する長寿命化計画に基づく整備方針が決まるまでは、これまでどおり大規模改造（質的整備を中心に）や施設の維持修繕を行っていくため、それに見合った想定目標値を設定した。		
指標名≫ ⑨ 幼稚園大規模改修整備率 【単位：％】			
27.0	37.1 35.0	45.0 58.0	① 空調設置など計画的整備が実施できた。 ③ 長寿命化改修を計画的に実施すべき築年数となっているが、園児数の減少により、小学校と同じく総合的判断が必要となっている。
★設定指標の考え方	今年度に策定する長寿命化計画に基づく整備方針が決まるまでは、これまでどおり大規模改造（質的整備を中心に）や施設の維持修繕を行っていくため、それに見合った想定目標値を設定した。		

❖ 町民等に期待される主な役割

町民	<ul style="list-style-type: none"> ○笑顔で元気なあいさつ運動の推進に協力しましょう。 ○知識や技能を生かし、幼稚園や小・中学校の教育に協力できるボランティア活動（読み聞かせや紙芝居、昔の遊びを教える等）を行いましょ。 ○地域や団体で行う児童・生徒の安全対策（見守り隊に参加し、登校隊と一緒に歩く等）に参画しましょう。 ○学校の規模・配置の適正化についての理解を深め、子ども第一に考え、よい知恵を出し合いましょ。
地域・団体 ・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や団体が一体となって、児童・生徒の安全対策を行いましょ。 ○少子化が進む中、変化の激しい社会の中で子どもがたくましく育つよう、手を貸しすぎず、見守り、体験させていしましょ。

第2章

よりよい生き方を求め、ともに学び合う教育のまち

2 社会教育

※この分野は、「庄内町教育振興基本計画（後期計画）」と整合性を図り策定しています。

◆現状と課題

生涯学習は、生涯にわたり、あらゆる場所で自発的に行う学習活動であり、芸術や文化、趣味、教養、スポーツ等により、町民一人一人の生活が、心豊かで生きがいのあるものになることを目指しています。

公民館では、子どもから高齢者までの幅広い年代の方が各種講座に取り組んでいますが、自分の趣味・娯楽活動も含め、生涯学習への取り組みは、あまり高いとはいえない状況にあります。

令和2年度現在は、地域づくりと社会教育の融合を図り、地域住民が自ら考え、自ら行う住民自治活動を支援する目的で、各学区・地区の地域づくり会議等に「元気の出る地域づくりを応援します交付金」を交付し、地域の実態に合わせた各種の事業を実施してもらっています。しかし、事業の企画立案、事業当日の運営体制などは、町職員や社会教育推進員が行っているのが実態で、地域住民が主体となった運営組織の形成が望まれています。また、町では、令和4年度から公民館をコミュニティセンター化する方向で検討を始めており、この交付金事業についても、コミュニティセンター移行後の地域づくり事業や公民館事業をどのように推進していくか整理が必要です。

公民館がコミュニティセンターに移行した際にも地域の実情や意向を反映した学習機会を提供していくとともに、施設が交流の場、学習の場となり、人と人とのつながりを育み、生活の潤いとなることが望まれます。

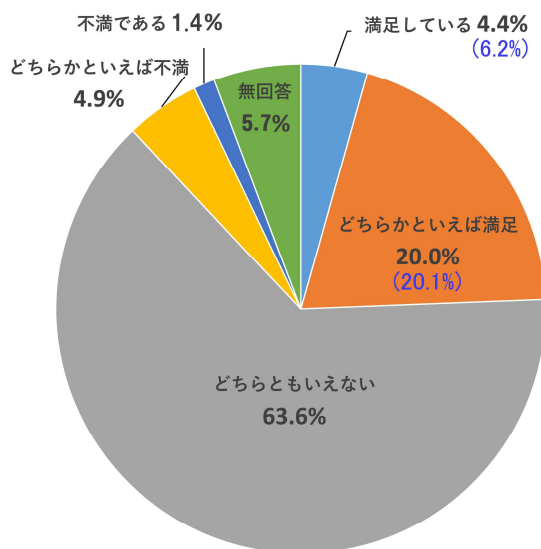
図書館においては令和元年度に「庄内町子ども読書活動推進計画」（第三次）を策定し、その取り組みを進めていますが、今後は、本推進計画の最終的な目標である「学校・家庭・地域における日常的な読書習慣の形成」をめざし、家庭・地域における読書環境・読書活動の充実が課題となっています。

施設整備については、図書館は、平成30年度に策定した「庄内町立図書館整備基本計画」を基に令和4年度内の新図書館開館をめざすとともに、内藤秀因水彩画記念館の改修も実施し、より多くの作品を展示できるよう整備を進めていきます。

公民館等の社会教育施設については、その多くが災害時の避難施設として指定されているものの施設の老朽化が進んでおり、長寿命化も必要となっています。

町の満足度 生涯学習環境

※（）はH26調査数値



※ 町民幸福度アンケート調査結果(令和元年度)より

❖ 施策の体系

2 社会教育

- 1 地域社会が一体となり、主体的に紡ぎあう体制づくりの推進
- 2 町民が共に学び続け、生きがいをもてる環境づくりの推進
- 3 図書館活用の充実
- 4 図書館の整備
- 5 社会教育施設の長寿命化の推進

❖ 主要施策

2-2-1 地域社会が一体となり、主体的に紡ぎあう体制づくりの推進

- ① 活力ある地域コミュニティ構築をめざし、町長部局と連携し公民館のコミュニティセンター化を検討するとともに各学区・地区の地域が主体となった運営組織の育成と地域力の向上を図ります。
- ② 放課後子ども教室などの庄内町地域学校協働活動推進事業やコミュニティ・スクールの導入など学校・地域が支えあうしくみを再構築し、地域力を高めます。

2-2-2 町民が共に学び続け、生きがいをもてる環境づくりの推進

- ① 町民が生涯にわたって気軽に参加でき、趣味や教養を高めたり、地域の歴史や文化等にふれる学習機会を提供するなど生涯学習の充実を図ります。
- ② 公民館がコミュニティセンターに移行した場合も各学区・地区の地域が主体となった運営組織において、円滑に取り組める支援体制を構築します。

★ 関連 ⇒ P130/6-2 コミュニティ/主要施策 6-2-2

2-2-3 図書館活用の充実

- ① 図書館が町民にとって、自宅や職場・学校に続く、自分にとって心地の良い第三の居場所＝サードプレイスとなるよう、空間づくりや事業等の開催に努めます。
- ② 家庭・地域における読書習慣（家読）の定着と推進体制の強化を図ります。

2-2-4 図書館の整備

- ① 「庄内町立図書館整備基本計画」の基本コンセプトである「みんなが集い 学び ふれあいつながる図書館」の実現を目指した図書館の整備を進めます。
- ② 図書館と内藤秀因水彩画記念館の併設メリットを活かし、「絵のある図書館 本のある美術館」をテーマとする空間づくりと運営を目指します。

2-2-5 社会教育施設の長寿命化の推進

社会教育施設について、安全安心な施設として利用できるように公共施設個別施設計画により、適切な維持管理、施設修繕及び機械設備の老朽化対策等を実施し、長寿命化を推進します。

❖ 主要事業

- 地域づくり推進事業
- 生涯学習推進事業
- 図書館活用事業
- 生涯学習関連施設整備事業

❖ 関連する個別計画

- 庄内町教育振興基本計画 《平成28年度～令和7年度》
- 庄内町子ども読書活動推進計画（第三次） 《令和元年度～令和5年度》
- 庄内町公共施設等総合管理計画 《令和3年度～令和42年度》

❖ ベンチマーク（施策指標）

平成26年度 計画策定時	令和2年度 上段：R1実績値 下段：計画値	令和7年度 上段：修正値 下段：計画値	① R1実績値が計画値を上回った要因 ② R1実績値が計画値に達しなかった要因 ③ R7計画値を修正した理由
指標名 ≧ ① 図書館来館者数 【単位：人】			
62,877	50,972 68,000	75,000 73,000	③ 図書館整備事業完了による利用者の増加が想定されるため
★設定指標 の考え方	館内設置カウント機器より算定		
指標名 ≧ ② 図書貸出冊数 【単位：冊】			
70,317	73,741 74,000	90,000 76,000	③ 図書館整備事業完了による利用者の増加が想定されるため
★設定指標 の考え方	図書館情報システムより算定		

【新規設定】

令和2年 現状値	令和7年 計画値	新たな指標を設定した考え方
指標名 ≧ ③ 公民館（コミュニティセンター）の指定管理移行数 【単位：件】		
1	7	コミセン化達成のため

★ 関連 ⇒ P131/6-2 コミュニティ/ベンチマーク⑤

❖ 町民等に期待される主な役割

町民	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会や各学区・地区の祭りなどには、積極的に参加・協力しましょう。 ○社会教育事業等に気軽に参加し、趣味や教養を高めたり、仲間づくり等を楽しみましょう。 ○学校や地域と一体となって子ども達を育てる活動を行いましょう。 ○図書館を活用し、読書に親しむ機会を増やしましょう。
地域・団体 ・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会や各学区・地区の祭りなど、地域活性化につながる事業を行いましょう。 ○地域や団体は、地域づくり事業等を通して地域課題の解決等に役立てましょう。 ○地域は、学校や家庭と一体となって子ども達を育てる活動を行いましょう。 ○世代間の交流や人とのつながりを大切に、自分達の地域を、自分達の手でよくしていくという意識をもちましょう。 ○学校・家庭（PTA）・地域等が連携し、協力しながら地域社会全体で読書環境づくりを進めましょう。

第2章

よりよい生き方を求め、ともに学び合う教育のまち

3 青少年健全育成

※この分野は、「庄内町教育振興基本計画（後期計画）」と整合性を図り策定しています。

◆現状と課題

現代は、核家族化や両親共働きなどにより、子どもが一人になる時間が多い状況の中、スマートフォン等の普及により、これまで以上にインターネットとの距離が近くなっています。幼い頃からインターネットを活用し、情報を簡単に得ることができるようになった一方で、依存症やネット上でのトラブル等が問題となっています。学校、PTA、地域が連携しながら、子ども達の発達段階に合わせて健やかに育つ環境を整えていくことが求められています。

家庭は、生活習慣や社会規範等、社会で自立するための適応力を身につける場として大切な役割を担います。「家庭教育は教育の土台」であり、その大切さを啓発することが必要です。しかし、子どもへの接し方やしつけ方、子どもとのあそび方等の子育ての方法が分からない、家庭内での子育てに関する考え方が異なるなど、悩みを抱えている保護者も多く、スクールソーシャルワーカーなど、悩み事を相談できる人や関係機関があることを周知するとともに支援へつなげる体制づくりも必要です。

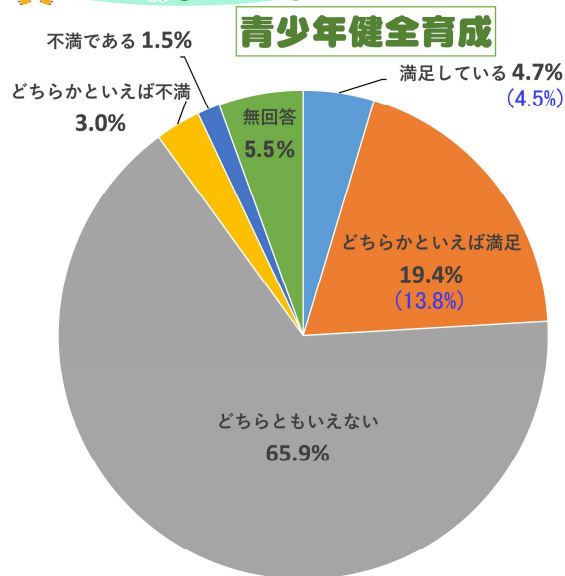
また、学校や地域は、家庭における読書習慣（家読）の大切さの啓発や家庭教育に関する学習機会の提供を通じて、安心して子育てに取り組むことができるよう支援する役割を担うことが望まれます。

子ども達はテレビやSNS、ゲーム等の擬似体験や間接体験に興味向き、実際の生活体験、自然体験が不足しがちな傾向にあると思われます。

社会の変化に主体的に対応していく力や生きる力を身につけるには、自然や社会の現実に触れる実体験が重要となります。また、子どもの頃の体験が、意欲や関心、規範意識につながると言われており、体験活動の場を提供していく必要があります。

町民の満足度

※（）はH26調査数値



※ 町民幸福度アンケート調査結果(令和元年度)より

◆施策の体系

3 青少年健全育成

- 1 教育の土台は家庭教育であることを広め、地域と連携した家庭教育力の向上
- 2 庄内町の自然・歴史・文化を生かした体験の充実と共有化

❖ 主要施策

2-3-1 教育の土台は家庭教育であることを広め、地域と連携した家庭教育力の向上

- ① 学校、PTA、地域が連携して家庭でのスマートフォン、ゲーム機等の使用について地域でのルールづくりなど、子ども達を取り巻く環境の整備を支援し、家庭教育力の向上に努めます。
- ② 「笑顔で元気なあいさつ運動」などをおし、地域の中での規範意識、思いやり、助けあいの意識の醸成を図ります。
- ③ しつけの基本は家庭であり、「家庭教育は教育の土台である」という気運を町民に広げること努めます。
- ④ 発達段階に応じた家庭教育の実践を促す支援と「家読」を推進します。

2-3-2 庄内町の自然・歴史・文化を生かした体験の充実と共有化

- ① 大中島自然ふれあい館（森森）周辺における自然に触れ親しむ体験や放課後子ども教室などをおして児童の相互交流や自然体験、文化活動及び青少年活動の充実を図ります。
- ② 南三陸町との小学生国内交流事業による児童の交流を通じて、豊かな感性を育むとともに、小学生のみならず、中高生がボランティアとして主体的に参加することでスキルアップを目指します。



❖ 主要事業

- 青少年健全育成事業
- 家庭教育事業

❖ 関連する個別計画

- 庄内町教育振興基本計画 <<平成28年度～令和7年度>>

❖ ベンチマーク（施策指標）

【新規設定】

令和元年度 実績値	令和7年度 計画値	新たな指標を設定した考え方
指標名 >> ① 放課後子ども教室の実施学区数 【単位：学区】		
2	5	現在、教育委員会では全学区での放課後子ども教室の実施を目指しているため、前期の青少年の事業参加割合から切り替えた。
指標名 >> ② 大中島自然ふれあい館の利用件数 【単位：件】		
21	25	H28 に県から旅館業法抵触の指摘を受け、宿泊の部分での利用者数が激減したため、前期利用者数から、件数に変更。
指標名 >> ③ 中学校生徒数に占めるボランティア登録者の割合 【単位：%】		
11	30	積極的なボランティア活動を行う生徒の増加を期待するため新規設定。

令和元年度 実績値	令和7年度 計画値	新たな指標を設定した考え方
指標名 ≧ ④ 保育園、幼稚園小中学校における保護者の家庭教育事業への参加人数 【単位：人】		
1,102	1,200	教育振興基本計画前期計画では同種の指標があったが、総合計画に載せていなかった。総合計画の文章中、家庭教育等を載せているためベンチマークも必要と判断。
指標名 ≧ ⑤ 家読（家での読書、読み聞かせ、親子読書、本に関わる会話等）ができた家庭 【単位：％】		
—	幼・小・中における全家庭の70％	教育振興基本計画後期計画では「家読」への取組みを重要化しており、総合計画の文章中にも「家読」について掲載しているためベンチマークも必要と判断。

❖ 町民等に期待される主な役割

町 民	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年の見守り活動に参画しましょう。 ○子育てに関する悩みがある時には、相談し、解決に努めましょう。 ○携帯電話やインターネットを利用した犯罪等に対する知識を深め、加害者・被害者にならないよう気をつけましょう。 ○「早寝早起き朝ごはん運動」や「笑顔で元気なあいさつ運動」に取り組みましょう。 ○地域の行事やボランティア活動に積極的に参加しましょう。
地域・団体 ・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や団体が一体となって青少年の見守り活動や「早寝早起き朝ごはん運動」や「笑顔で元気なあいさつ運動」に取り組みましょう。 ○地域や団体は、行政と連携し、町民への青少年健全育成に関する広報・啓発活動を行い、地域で青少年を育てるという機運を高めましょう。 ○青少年の活動の成果を認め合い共有していきましょう。



第2章

よりよい生き方を求め、ともに学び合う教育のまち

4 スポーツ

※この分野は、「庄内町教育振興基本計画（後期計画）」と整合性を図り策定しています。

◆現状と課題



★庄内町八幡スポーツ公園

スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利です。また、スポーツは、健康・体力を増進させるだけでなく、創造性を育み、信頼と連帯を深め、個々の生活を充実させるものであり、地域活性化に大きな役割を担っています。

本町の社会体育施設は、平成28年度から一部施設が指定管理者制度へ移行し、八幡スポーツ公園を中心に町民のそれぞれの生涯各時期に適応したス

ポーツ・レクリエーション活動の推進や様々な種目の競技力向上に寄与し、各種大会等の開催により、町内外から多くの方が利用しています。

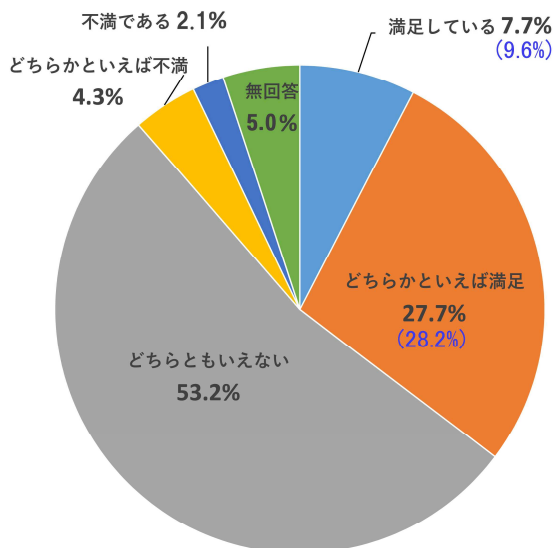
本町の小学生のスポーツ少年団単位団への加入率は、県内で上位に位置し、中学校の運動部等では、中体連等の主要な大会で県大会へ進出する生徒の割合が県内でも高く、学校や地域指導者、保護者の協力のもと、熱心な指導の賜物であると思われます。しかしながら、「過度な活動による子どもの心身の疲弊」など様々な問題が顕在化してきたため、小中学生を対象とした健全育成のためのスポーツ環境を整えるために配慮すべき事項を「庄内町小中学生のスポーツ活動ガイドライン」として定め、令和元年度から運用しています。

近年、健康・体力づくりに対する関心が高まるとともに、町民のスポーツニーズは増大・多様化の傾向にあり、すべての町民が生涯にわたってそれぞれの年齢や体力に応じたスポーツ活動を行うことができる環境づくりが一層求められています。

このため、施設の整備充実及び管理運営体制の充実を進めるとともに、各種スポーツ団体と連携し、総合型地域スポーツクラブの育成や指導者の育成、スポーツ大会・教室の実施及び支援など、スポーツ活動の場と機会の充実を進めるとともに、それら情報を広く発信していく必要があります。

町民の満足度 スポーツ環境

※（）はH26調査数値



※ 町民幸福度アンケート調査結果(令和元年度)より

❖ 施策の体系

4 スポーツ

- 1 スポーツ活動の普及促進
- 2 各種スポーツの競技力向上の支援
- 3 町民主体の社会体育施設の運営と総合型地域スポーツクラブ自立の支援
- 4 スポーツ施設の整備充実



❖ 主要施策

2-4-1 スポーツ活動の普及促進

スポーツ協会やスポーツ少年団等と連携し、各種スポーツ大会やスポーツ教室の内容を充実して、参加促進に努めるとともに、スポーツに関する広報・啓発活動の推進、スポーツ情報の収集・提供を図り、町民のスポーツへの関心を高めていきます。

2-4-2 各種スポーツの競技力向上の支援

スポーツ協会及び各種団体等と連携し、競技力向上を目的とした各種大会及び講習会等を開催するとともに、学校・保護者・スポーツ少年団本部等と連携して研修会を開催し、中学校運動部活動地域指導者及びスポーツ少年団指導者の育成に努めます。

2-4-3 町民主体の社会体育施設の運営と総合型地域スポーツクラブ自立の支援

総合型地域スポーツクラブを中心に社会体育施設の管理運営を一体的に行うことで、各競技団体と連携を深め、八幡スポーツ公園を中心に各種大会及び事業の開催、誘致に努め、観光・交流に資する施設として利用者の拡大を図り、町の魅力の一つとしての情報発信に努めます。

2-4-4 スポーツ施設の整備充実

スポーツ施設について、長寿命化・適正配置を計画的に推進し、施設・設備の整備充実を図ります。町立武道館の老朽化に伴う庄内町複合型屋内運動施設（仮称）の整備については、平成30年度に策定した「庄内町複合型屋内運動施設（仮称）整備基本計画」をベースにしながらも、町の財政状況も考慮しつつ具体的な検討を進め、その整備を推進します。

❖ 主要事業

- 生涯スポーツ推進事業
- 競技スポーツ支援事業
- スポーツ施設整備事業

❖ 関連する個別計画

- 庄内町教育振興基本計画 <平成28年度～令和7年度>
- 庄内町公共施設等総合管理計画 <令和3年度～令和42年度>



❖ベンチマーク（施策指標）

平成26年度 計画策定時	令和2年度 上段：R1実績値 下段：計画値	令和7年度 上段：修正値 下段：計画値	① R1実績値が計画値を上回った要因 ② R1実績値が計画値に達しなかった要因 ③ R7計画値を修正した理由
指標名≫ ① スポーツ施設の利用者数 【単位：人】			
258,868	257,544	270,000	② 総合体育館を中心とする八幡スポーツ公園については一定の利用者数をキープしたが、少子化等の影響により立川地域のスポーツ施設の利用者数が減少傾向にある。
	270,000	280,000	
★設定指標 の考え方	屋内、屋外体育施設の利用者数により、スポーツ施設の利用状況を示す指標である。体育施設の整備充実を図り、スポーツ推進体制の充実、有効な利用を図るための整備に努める。		

❖町民等に期待される主な役割

町民	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツへの関心を高め、スポーツ活動に日常的に取り組みましょう。 ○スポーツ大会・教室に参加し、多様なスポーツ活動を行いましょう。 ○指導者として、積極的に研修会等に参加し研鑽しましょう。
地域・団体 ・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ団体は、スポーツ大会・教室の内容充実を図り、町民の多様なスポーツ活動を促進しましょう。 ○スポーツ団体は、指導者の育成や資質の向上を図りましょう。 ○総合型地域スポーツクラブは、活動内容及び運営体制の充実に努めましょう。 ○スポーツ団体は、大会等の開催により八幡スポーツ公園の観光・交流への活用に協力しましょう。

第2章

よりよい生き方を求め、ともに学び合う教育のまち

5 文化芸術・文化財

※この分野は、「庄内町教育振興基本計画（後期計画）」と整合性を図り策定しています。

❖現状と課題

文化芸術は、人々に精神的な豊かさや感動、生きる勇気をもたらすものであり、住民生活や地域活性化に欠かせない重要な要素です。

本町では、町民主導の文化芸術の鑑賞・発表機会を充実するため、平成28年度から、文化創造館「響ホール」を指定管理委託し、施設の管理運営のみならず、自主事業や支援事業、育成事業等を実施し、文化芸術にふれる機会の提供と環境整備に努めています。

本町には、国指定天然記念物の月山や県・町の指定する文化財が114件あり、長い歴史の中で生まれ、守り伝えられてきた地域の貴重な財産です。平成29年には六渕砂防堰堤と瀬場砂防堰堤が国の登録有形文化財（建造物）に、北楯大堰が世界かんがい施設遺産に登録され、町の観光資源としても今後の有効活用が期待されます。町内にはまだ掘り起こされていない文化財や古文書等は数多くあると考えられ、更なる調査・研究が必要となっています。

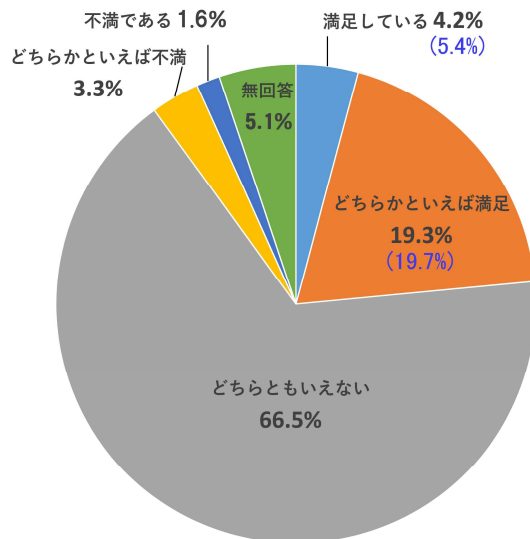
また、本町の歴史や風土とともに育まれてきた伝統文化や民俗芸能の保存・伝承については、後継者や資金の不足などの課題を抱えており、伝承することが難しい状況になりつつあります。

今後は、地域住民が地元に残る民俗芸能を再認識し存続に努めるとともに、課題解決に向けた取り組みを進めることが重要です。

歴史民俗資料館は、令和元年度から事前予約による公開のみの対応としています。また、歴史民俗資料館と亀ノ尾の里資料館は、収蔵品及び公開資料には類似しているものが多いことから、それぞれの資料館を庄内町の資料館として整理統合することも視野に入れながら資料の整理をすすめ、わかりやすく魅力ある展示・公開を検討していく必要があります。

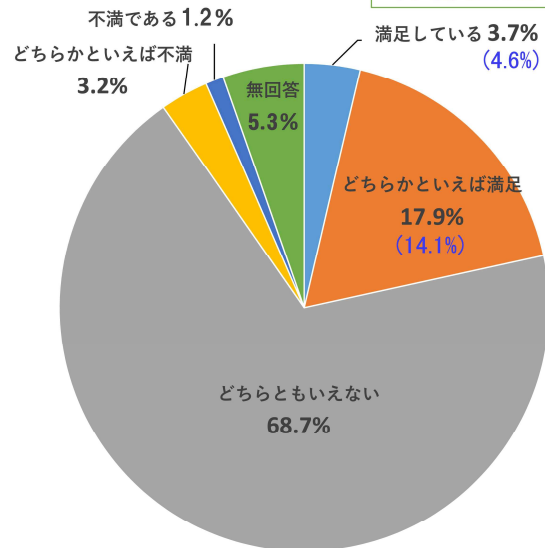
町民の満足度 文化芸術環境

※（）はH26調査数値



町民の満足度 文化遺産の保存活用

※（）はH26調査数値



※ 町民幸福度アンケート調査結果（令和元年度）より

基本計画の構成

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

資料編

❖ 施策の体系

5 文化芸術・文化財

- 1 文化芸術活動の促進
- 2 小・中学生の文化芸術活動の充実
- 3 文化施設の整備充実
- 4 文化財の保存・有効活用と資料館の充実
- 5 民俗芸能等の伝承活動の支援

❖ 主要施策

2-5-1 文化芸術活動の促進

- ① 響ホール事業推進協議会や庄内町芸術文化協会への支援を通じ、町民主体の文化芸術活動を促し、文化芸術にふれあう機会や発表の機会の提供に努めます。
- ② 内藤秀因水彩画記念館については、特色ある展示・公開と情報発信に努めます。

2-5-2 小・中学生の文化芸術活動の充実

子ども達が響ホールの舞台上で発表する機会の充実に努めます。また、美術作品の展示や各種イベントに参加することにより、文化活動の楽しさやすばらしさを経験し、感受性、表現力の育成を図りながら、自信や達成感につなげます。

2-5-3 文化施設の整備充実

本町の文化芸術活動の拠点施設である「響ホール」について、老朽化等に対応した設備等の整備充実を計画的に推進します。

2-5-4 文化財の保存・有効活用と資料館の充実

- ① 指定文化財の適正な保存に努めるとともに、文化財への認識と理解を深めるため、各関係機関と連携し地域に即した保全・有効活用を推進します。
- ② 本町の歴史・文化の研究拠点として、資料館の展示内容及び設備の充実に努め、展示を通して町内外の人々が本町の歴史や文化にふれることができる学びの場としての活用を推進します。

2-5-5 民俗芸能等の伝承活動の支援

民俗芸能、暮らしの中の伝統文化等の映像による正確な記録を進め、所作等の伝承に努めるとともに、民俗芸能保存伝承協議会と連携し、発表の場の提供や情報交換、情報発信に努め、後継者の育成を支援します。

❖ 主要事業

- 文化芸術振興事業
- 文化財の保存・公開事業
- 民俗芸能の保存・伝承支援事業

❖ 関連する個別計画

- 庄内町教育振興基本計画 <<平成28年度～令和7年度>>



❖ベンチマーク（施策指標）

平成26年度 計画策定時	令和2年度 上段：R1実績値 下段：計画値	令和7年度 上段：修正値 下段：計画値	① R1実績値が計画値を上回った要因 ② R1実績値が計画値に達しなかった要因 ③ R7計画値を修正した理由
指標名≫ ① 「響ホール」利用者数 【単位：人】			
72,836	58,224	70,000	② 近隣に大規模な文化ホールがオープンしたことから、利用者数、利用件数も減少した。 ③ 今後も、ほかの文化ホールの影響を受けると考えられるため、下方修正したが、響ホールの特色を活かした運営を目指す。
	75,000	80,000	
★設定指標の考え方	響ホールの利用者数、利用件数により町民の文化芸術活動の促進度を示す指標である。鑑賞機会の提供や文化芸術に関する発表機会の充実等を図り利用者数、利用件数の増加を目指す。		
指標名≫ ② 「響ホール」利用件数 【単位：件】			
2,087	1,933	2,200	② 近隣に大規模な文化ホールがオープンしたことから、利用者数、利用件数も減少した。 ③ 今後も、ほかの文化ホールの影響を受けると考えられるため、下方修正したが、響ホールの特色を活かした運営を目指す。
	2,100	2,200	
★設定指標の考え方	響ホールの利用者数、利用件数により町民の文化芸術活動の促進度を示す指標である。鑑賞機会の提供や文化芸術に関する発表機会の充実等を図り利用者数、利用件数の増加を目指す。		
指標名≫ ③ 庄内町芸術祭出演（出展）者数 【単位：人】			
975	952	1,100	② 出演（出展）団体が減少していることから、人数も減少した。 ③ 団体の高齢化も進んでいることから下方修正した。
	1,100	1,200	
★設定指標の考え方	芸術祭の出演（出展）者数により町民の文化芸術活動の促進度を示す指標である。今後は、若い世代の参加促進を目指す。		

【新規設定】

令和元年度 実績値	令和7年度 計画値	新たな指標を設定した考え方
指標名≫ ④ 内藤秀因水彩画記念館来館者数 【単位：人】		
5,257	8,000	図書館整備事業内で水彩画記念館改修工事も実施し、展示スペースが拡張されることから、利用者の増加が想定されるため。

❖ 町民等に期待される主な役割

町 民	<ul style="list-style-type: none"> ○町芸術祭、各学区・地区の祭り、響ホール等で開催される文化芸術イベントや文化事業に参加しましょう。 ○文化財への理解を深め、指定文化財の保存・有効活用や埋蔵文化財の発掘に協力しましょう。 ○地域に残る古文書の保存に努めましょう。 ○資料館を利用し、本町の歴史・文化に触れあいましょう。
地域・団体 ・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○文化芸術団体等は、主体的な文化芸術活動を行い、町芸術祭や各学区・地区の祭りの運営に参画しましょう。 ○文化芸術団体等は、自主的な文化芸術イベントや文化事業を企画・開催しましょう。 ○地域や団体は、文化財への理解を深め、指定文化財の保存・有効活用や埋蔵文化財の発掘に協力しましょう。 ○地域や団体は、地域に残る古文書の保存に努めましょう。



第2章

よりよい生き方を求め、ともに学び合う教育のまち

6 国内外交流

❖ 現状と課題

人・物・資本・情報の地球規模での交流がますます活発化し、産業・経済分野はもとより、身近な住民生活においても国際化が進んでいます。

このような中、本町では、国際交流協会への支援を行い、当該協会の事業を通じて、農業部門における外国青年の受け入れ事業や多様な国際理解・交流活動の促進に努めるとともに、在住外国人等が安心して生活できるよう、相談・支援等を行っています。

今後、国際化がさらに進む中で、国際化に対応したまちづくりが一層重要なものになってくることが予想されるため、人材育成の一層の推進をはじめ、町民主体の多様な交流活動の促進など、積極的な対応が求められます。

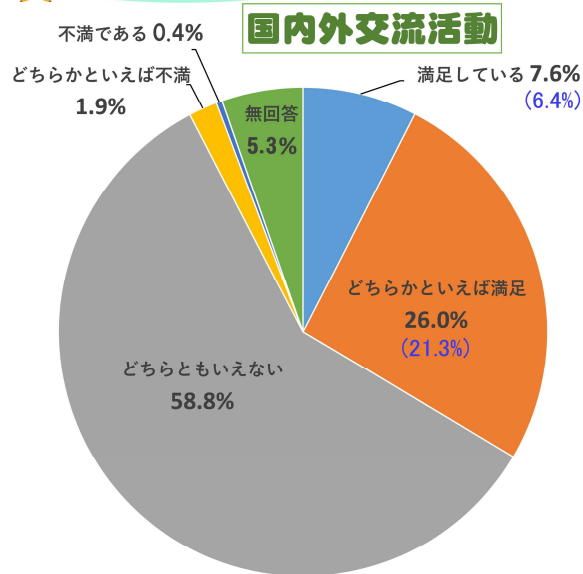
一方、国内における他地域との交流としては、平成18年度に、宮城県南三陸町と友好町の盟約を締結し、産業・経済や教育・文化など多方面にわたって交流を進めてきました。東日本大震災以降は、交流や復興支援の輪がさらに広がっています。

平成21年度に設立された東京庄内会についても定期的な情報交換や交流を行っています。

また、県立庄内総合高等学校は、本町にある唯一の高校であり、地域や学校と連携した取り組みを行うなど、地域に活力をもたらしてきました。

こうした交流は、地域活性化や人材育成の大きな契機となるものであることから、今後とも、これらの交流を継続していきます。

町民の満足度 ※()はH26調査数値



※ 町民幸福度アンケート調査結果(令和元年度)より

❖ 施策の体系

6 国内外交流

- 1 国際化に対応した人材の育成
- 2 国際理解・交流活動の促進
- 3 外国人が住みやすく訪れやすい環境づくり
- 4 国内交流活動等の充実

❖ 主要施策

2-6-1 国際化に対応した人材の育成

教育部門における外国語教育等の充実はもとより、青少年の自主的な国内外研修参加を支援し、国際化に対応した人材の育成に努めます。

2-6-2 国際理解・交流活動の促進

- ① 国際交流協会への支援を引き続き行い、町民主体の多様な国際理解・交流活動の促進に努めます。
- ② 身近な国際交流事業として、町内や近隣市町村に住む外国人との交流の場づくりに努めます。

2-6-3 外国人が住みやすく訪れやすい環境づくり

- ① 在住外国人が地域の一員として安心して生活を送ることができるよう、関係機関と連携して相談・支援等の充実に努めます。
- ② 外国人が住みやすく訪れやすい環境づくりに向け、外国語版のパンフレット等の作成について検討し、言葉や文化理解活動を支援します。

2-6-4 国内交流活動等の充実

- ① 国内交流は、本町と縁のある人々や地域等との多様な交流と連携を図ります。
- ② 友好町である宮城県南三陸町との交流について、今後とも地域活性化や人材育成、復興支援等を中心とした取り組みを継続していくとともに、町民主体の交流となるよう、内容・方法等の充実に努めます。
- ③ 友好町である宮城県南三陸町の青少年との交流について、両町の自然・風土にふれあい、親睦を深める取り組みを継続して実施します。
- ④ 東京庄内会との情報交換や交流について、地域活性化につながるよう、内容の充実に努めます。
- ⑤ 本町の県立高校である庄内総合高等学校は、令和4年度に全日制・昼間定時制・通信制の3課程が併設されることから、学校との各種交流を通して町の活性化を図るための取り組みなど、同校の地域交流活動への支援を行います。



❖ 主要事業

- 国際交流事業
- ふるさと会事業
- 友好町交流事業
- 庄内総合高等学校支援事業



❖ ベンチマーク（施策指標）

平成 26 年度 計画策定時	令和 2 年度 上段：R1 実績値 下段：計画値	令和 7 年度 上段：修正値 下段：計画値	① R1 実績値が計画値を上回った要因 ② R1 実績値が計画値に達しなかった要因 ③ R7 計画値を修正した理由
指標名 ≧ ① 国際交流協会事業参加者数 【単位：人】			
652	623 700	800 800	② 年度によって外国青年の受入れ事業の有無があるため、参加者数は増減するが、概ね計画値を達成している。
★設定指標の考え方	国際交流協会の事業が住民に周知され、より多くの方々が参加することにより活動の意義が高まるため。		
指標名 ≧ ② 南三陸町との交流人口 【単位：人】			
494	775 600	800 700	① 南三陸町等支援交流事業助成金の活用が定着し、学校及びP T Aや親子行事等での活用があったため。
★設定指標の考え方	友好町との交流が住民レベルで推進されることが重要であるため。		

❖ 町民等に期待される主な役割

町 民	○国内外交流への関心を高め、各種交流活動等に参画しましょう。
地域・団体 ・事業者	○国際交流協会や町民交流団体は、活動体制の充実に努め、各種交流活動等を主体的に行いましょう。 ○事業者は、経済交流活動等に参画しましょう。

